聖地ではばたけ

全国高校大会に挑む県勢

▼5▲

ラグビー（27日―1月7日、大阪）

秋田中央

【42年ぶり6度目】

位置	名前	出身校	身長	体重
PR	滝代 圭佑③	天王南	172	78
HO	◎吉田 洋平③	男鹿東	171	87
PR	鎌田 隼綺②	河辺	174	107
LO	八槻 英翔③	男鹿東	181	82
LO	吉田 祐太②	将軍野	184	81
FL	佐藤 克俊③	天王南	155	60
FL	佐藤 康平③	雄和	177	77
NO8	浜田 勇毅③	秋田北	170	81
SH	鈴木 央③	城東	167	63
SO	奈良 敬太③	天王南	174	73
WTB	鈴木 智裕②	払戸	172	74
CTB	谷 直哉②	天王南	172	70
CTB	関山 歩麻③	男鹿東	171	70
WTB	佐々木裕也②	将軍野	179	68
FB	佐藤 正章③	桜	172	70
補	畠山 智哉②	潟西	182	97
補	菅原浩太郎②	羽城	170	83
補	高橋 翔太③	山王	174	79
補	石川 一樹②	天王南	170	67
補	伊藤 拓真②	羽城	172	78
補	澤木 大樹①	男鹿東	169	65
補	畠山 航②	男鹿南	170	70
補	三浦 正嗣②	天王南	173	64
補	蓬田 雄希②	潟西	172	63
補	小林 峻②	下北手	170	70

（○内の数字は学年、◎は主将）

FWの踏ん張りが鍵

雪交じりの雨が降り、ぬかるんだグラウンドコンディションを気にすることなく、同校フィフティーンが練習に励む。

チームの武器は鈴木智裕（2年）、佐々木裕也（同）の両WTBを筆頭にしたBK陣の「足」。ただ、BKが力を発揮するには、FW戦で相手と同等以上に渡り合うことが必要となる。

28日の1回戦で対戦する萩工・萩商工（山口）は、キックで陣地を獲得し、FWで押してくるチーム。山口県大会を6連覇しており、試合運びのうまさには定評がある。

古谷和義監督は「FWでプレッシャーをかけられるかで勝負が決まる。そのためにはセットプレーが安定しなければ話にならない」。FWが好機を確実に生かし、ボールをどれだけBKに供給できるかがチームの生命線になりそうだ。

10月の県大会では準決勝で男鹿工、決勝で秋田工と、強力なFWを擁する相手を抑えて頂点に立った。特に男鹿工戦では、確実に陣地を取って攻めてくる相手に苦戦したが、自陣ゴール前での必死のディフェンスでノーサイド直前に同点、抽選勝ちに結びつけた。

他チームに比べFWの体格が勝っていたわけではない。しかし堅いスクラムにより、接点で相手に押し負けることがなかった。FWの力が相殺されると、BKがその脚力を発揮した。

県大会決勝から約1カ月後の11月23―25日、宮城に遠征した。全国大会に出場する仙台育英を相手に、試合形式の練習を行った。FWはスクラム、ラインアウトといったセットプレーを、BKは実戦さながらのアタック、ディフェンスを繰り返した。

初めは相手の強さ、速さに戸惑いも見られたが、次第に対応できるようになったことで選手の自信にもつながった。

「（強豪校に）慣れる効果もあったようだ」と古谷監督。

これまで5回の全国大会出場のうち、4回は、前年に全国優勝し、無条件で花園に進むことができた秋田工を除いた県大会を勝ち上がった。残り1回は、秋田工を破った金足農を下しての優勝だった。

「打倒・秋田工」を掲げたチームが、その目標を達成した上で全国に出場するのは今回が初めて。吉田洋平主将（3年）は言う。「ようやく目指していた場所にたどり着ける」。当面の目標は、3回戦で当たる可能性が高いAシード・伏見工（京都）を破っての8強入りだ。

FWからBKへの連係を繰り返し確認する秋田中央フィフティーン＝同校グラウンド

第87回全国高校ラグビー大会

東福岡(福岡)⑱
西陵(愛知)㊱
12/30 15:15 Ⅲ
玉竜(鹿児島)⑦
12/27 12:00 Ⅰ
新潟工(新潟)㉜
1/1 10:30 Ⅰ
大阪朝鮮高(大阪第2)③
12/27 13:15 Ⅰ
岡谷工(長野)㉓
12/30 14:00 Ⅲ
八幡工(滋賀)㉔
12/27 12:00 Ⅱ

盛岡工(岩手)㉝
平工(福島)⑪
12/30 12:45 Ⅲ
和歌山工(和歌山)⑯
12/27 13:15 Ⅱ
関商工(岐阜)㉚
1/1 11:45 Ⅰ
尾道(広島)②
12/27 14:30 Ⅱ
東海大仰星(大阪第1)⑨
12/30 11:30 Ⅲ

仙台育英(宮城)⑭
東海大翔洋(静岡)⑦
12/30 10:15 Ⅲ
長崎北陽台(長崎)⑪
12/27 12:00 Ⅲ
東農大二(群馬)㉓
1/1 13:00 Ⅰ
名護(沖縄)⑪
12/27 13:15 Ⅲ
大分舞鶴(大分)㊻
12/30 14:30 Ⅱ

国学院久我山(東京第1)㉝
四日市農芸(三重)⑭
12/30 13:15 Ⅱ
関西(岡山)⑤
12/27 14:30 Ⅲ
札幌山の手(南北海道)⑧
1/1 14:15 Ⅰ
倉吉東(鳥取)⑧
12/28 11:15 Ⅰ
天理(奈良)㊿
12/30 9:00 Ⅲ

桐蔭学園(神奈川)⑦
北見北斗(北北海道)㉟
12/30 12:00 Ⅱ
土佐塾(高知)⑪
12/28 12:30 Ⅰ
山形中央(山形)⑯
1/1 10:30 Ⅲ
若狭(福井)⑦
12/28 13:45 Ⅰ
日本航空二(石川)③
12/30 10:45 Ⅱ
城東(徳島)⑩
12/28 10:00 Ⅱ

流通経大柏(千葉)⑮
日川(山梨)㊲
12/30 9:30 Ⅱ
江の川(島根)⑰
12/28 11:15 Ⅱ
富山工(富山)⑫
1/1 11:45 Ⅲ
高鍋(宮崎)⑰
12/28 12:30 Ⅱ
大工大高(大阪第3)㉚
12/30 14:30 Ⅰ

茗渓学園(茨城)⑮
本郷(東京第2)⑧
12/30 13:15 Ⅰ
北条(愛媛)㊗
12/28 13:45 Ⅱ
国学院栃木(栃木)⑬
1/1 13:00 Ⅲ
荒尾(熊本)③
12/28 10:00 Ⅲ
佐賀工(佐賀)㊱
12/30 12:00 Ⅰ

秋田中央 ⑥
萩工・萩商工(山口)⑬
12/28 11:15 Ⅲ
青森北(青森)⑩
12/30 10:45 Ⅰ
高松北(香川)⑥
12/28 12:30 Ⅲ
正智深谷(埼玉)⑫
1/1 14:15 Ⅲ
関西学院(兵庫)③
12/28 13:45 Ⅲ
伏見工(京都)⑰
12/30 9:30 Ⅰ

丸数字は出場回数、㊗は初出場。
全試合30分ハーフ。Ⅰ、Ⅱ、Ⅲは使用グラウンド。
準々決勝以降の組み合わせは抽選

見わたせば 耳を澄ませば

秋田中央高ラグビー部OB会長

42年ぶり夢の花園に

母校愛する心 今も変わらず

二十七日に大阪の花園ラグビー場で開幕する全国高校ラグビー大会。本県代表の秋田中央が花園の土を踏むのは秋田市立時代の昭和四十年度以来、四十二年ぶりのことだ。当時主将だったラグビー部OB会長の金義悦さん(六〇)=秋田市=は卒業後も約四十年にわたりチームを支え、母校が再び夢舞台に立つ日を待ち望んだ一人。試合後、選手が手渡してくれた優勝杯は流れた歳月だけ重さを感じた。

十月二十七日、決勝の相手は六月の全県高校総体決勝で敗れた秋田工だった。秋田中央は秋田市立時代を含め、秋田工を下して全国大会に出場したことがない。県ラグビー協会理事長も務める金さんは大会期間中、本部で大会運営に当たったが、決勝は大会関係者がOB会長の立場を優先してくれた。「いいから応援に行け」。背中を押され、母校のベンチに入った。

3—3で迎えた後半、秋田中央は三連続トライを挙げて優位に立った。一時は20—10に迫られたが、後半25分に勝負を決めるトライ。花園出場を告げるノーサイドのホイッスルに感涙した。

意地でFBに定着

高校からラグビーを始めた金さん。身長一六〇㌢、体重五五㌔と小柄な選手だった。「ラグビーの選手の中では足が遅くて、監督から『やめるなら早いほうがいいぞ』と言われたけど、まさか『はい』というわけにはいかない」と意地になった。

努力が実り、二年でFBに定着。三年になってから主将として二年生主体のチームをまとめ、県予選は秋田を5—0で下し花園出場を決めた。花園の初戦は福岡高(福岡)に逆転負けしたが、当時の監督とコーチが「来年必ずまた来る。こさ来て、優勝してみんなの敵を取る」と励ましてくれたことが印象深く残っている。

翌四十一年度、秋田市立は国体に単独チームで出場して優勝するが、花園県予選では準決勝で秋田工に行く手を阻まれ、OBとして「打倒、秋田工」の思いを強くした。高校卒業後も家業の畳店を手伝う傍ら、夕方に仕事が一段落すると、毎日のように部の練習に足を運んだ。

しかし、どうしても花園には手が届かず、平成五年ごろに「あとは若い人に任せよう」と約二十五年間務めたコーチから身を引いた。指導現場から退いても「母校のために」との思いは変わらない。十四年に古谷和義さん(三七)が監督に就任すると、「まだ実績がないから周りにはいろいろ言うやつもいる。オレが盾になる」とOB会長を引き受けた。

思ったことをずばりと言い、正直さが生意気と受け止められることもあるが、人情の厚さに多くの人が引き寄せられる。秋田中央が花園出場を決めてから、金さんには祝福の電話が鳴り続けた。

「もし、あのとき花園に出てなければ、今までラグビーを続けていたのかな。あの一瞬がオレの一生だよ。今回の優勝で、またこれからが楽しくなる」と笑う。

亡き友に出場報告

唯一の心残りは、秋田市立時代に十二年間監督を務めた故・脇坂憲雄さんと花園に行けなかったことだ。

ともに打倒・秋田工に燃え、チームを鍛えた仲間だった。秋田中央が春の全国選抜で16強入りした平成十六年、花園県予選決勝ではがんと闘う脇坂さんの姿がスタンドにあった。強風が吹き荒れたこの日、前半は風上に立った秋田中央が秋田工をリードしたが、後半に逆転され14—20で敗れた。

試合後に「カネちゃん、今年も勝てなかったな」とスタンドから声を掛けた脇坂さん。がんとは知らない金さんは「オレがだが一回勝ってれば苦労しなかったな。勝って花園で一杯やればあとは死んでもいいべ」と冗談めかした。「んだな。まず寒いから帰る」。脇坂さんはこう言い残してスタンドを後にしたが、二人の会話はこれが最後だった。

「ワキさんと行きたかったなあ」。金さんは脇坂さんの仏前に待ち望んだ全国出場を報告した。

優勝杯を手にし、選手と笑顔で記念撮影をする金さん(手前中央) =秋田市八橋球技場

ディフェンスを確認

秋田中央 きょう青森北と

全国高校ラグビー

第87回全国高校ラグビー大会第4日はきょう30日、東大阪市の近鉄花園ラグビー場で2回戦16試合を行う。46年ぶりに1回戦を突破した秋田中央は、午前10時45分から青森北（青森）と対戦する。フィフティーンは29日、大阪府大東市の大産大グラウンドで約1時間半、ディフェンスを中心に練習を重ね、青森北の大型FW対策に励んだ。

青森北は3年連続10度目の出場で、過去の最高成績は8強。平均体重92・5キロのFWで押し、BKでトライを重ねる。高松北（香川）との1回戦では前半の5トライ中3本をモールで奪った。後半は一転して展開ラグビーでトライを重ね、69―3で勝ち進んだ。

秋田中央フィフティーンはこの試合をビデオで観戦。吉谷和義監督は「BK戦は挑んでこないだろう。うちは相手FWをいかに止められるかがポイント」と分析する。

練習では、雨でグラウンドコンディションが悪い中、ラインアウトからモールで攻めてくる相手をスクラムで止めたり、キックに対しチャージでプレッシャーを与えるなど、主にディフェンスの確認に時間を費やした。攻撃では、FWとBKの連係を反復した。

吉田洋平主将（3年）は、「相手FWは体重がある分、走れないはず。いつも通りどんどんボールを回して攻め込みたい」と意気込んでいた。

ＯＢを相手にディフェンスの練習に取り組む秋田中央の選手―大阪府大東市の大産大グラウンド

全国高校ラグビー

〈第1日〉

平工（福島）など2回戦へ

51代表校、激突スタート

第87回全国高校ラグビー大会は27日、42年ぶり6度目の出場となる秋田中央など51代表校が参加して東大阪市の花園ラグビー場で開幕した。1回戦の8試合を行い、尾道（広島）西陵（愛知）大阪朝鮮高（大阪第2）などが2回戦に勝ち上がった。

尾道は関商工（岐阜）に36－0で、西陵は玉竜（鹿児島）に41－7で快勝。大阪朝鮮高は新潟工（新潟）を19－14で振り切った。平工（福島）東農大二（群馬）四日市農芸（三重）八幡工（滋賀）長崎北陽台（長崎）も2回戦に進んだ。

試合に先立って行われた開会式では、札幌山の手（南北海道）の石山拓人主将が選手宣誓をした。28日は1回戦の残り11試合を実施し、秋田中央－萩工・萩商工（山口）や正智深谷（埼玉）－関西学院（兵庫）などの対戦がある。

▽1回戦

西陵（愛知）	41（31－0、10－7）	玉竜（鹿児島）	関商工（岐阜）	36（26－0、10－0）	尾道（広島）
八幡工（滋賀）	33（21－7、12－7）	岡谷工（長野）	長崎北陽台（長崎）	43（29－7、14－7）	東海翔洋（静岡）
平工（福島）	60（34－0、26－0）	和歌山工（和歌山）	大阪朝鮮高（大阪第2）	19（14－7、5－7）	大阪第一（大阪）
新潟工（新潟）	19（14－7、5－7）	大阪朝鮮高（大阪）	北陽台（長崎）	14（7－0、7－0）	東海大翔洋（静岡）
東農大二（群馬）	22（12－0、10－0）	名護（沖縄）	四日市農（三重）	44（34－0、10－0）	芸工（三重）
関商工（岐阜）	36（26－0、10－0）	尾道（広島）	関西学院（兵庫）	22（12－0、10－0）	関西（岡山）

秋田中央きょう初戦

萩工・萩商工のパターン確認 OB相手、最終調整

全国高校ラグビー大会第2日のきょう28日、秋田中央は午前11時15分から東大阪市多目的広場（花園第3グラウンド）で、萩工・萩商工（山口）と対戦する。秋田中央フィフティーンは27日、大東市の大産大グラウンドで午後1時から約1時間半、最終調整に汗を流した。

選手らはこの日までに、山口県大会準決勝、決勝のビデオで、萩工・萩商工の攻撃パターンを確認。キックを多用し、FWで押し込んでBKが展開し得点する攻撃の特徴をつかんだ。

27日の練習には、秋田中央OBの大学生7人が協力。OBを萩工・萩商工に見立て、実戦形式の練習を繰り返した。相手キックの飛距離によって、キャッチ後に転じる攻撃スタイルを選択するなど、状況に応じた攻め方を確認。雨によるグラウンドコンディション悪化を想定し、ハイパントを用いた攻撃も反復練習した。相手の展開攻撃には出足の速いディフェンスで対抗した。

攻撃の起点となるラインアウトや、BK陣によるパスワークも入念にチェック。古谷和義監督は「けが人もなく仕上がりは上々。FW戦で優位に立てるかどうかが勝負の分かれ目になりそう」と話した。

フィフティーンは練習に先立ち開会式に参加。吉田洋平主将（3年）は「入場行進して花園の雰囲気はつかんだ。試合をするのが楽しみになってきた」とリラックスした様子。初戦に向け「持ち味の展開ラグビーを前面に出せれば、絶対に負けない」と自信をみなぎらせていた。

萩工・萩商工の横顔

萩工（3年生）と、萩工と萩商が統合し昨年度誕生した萩商工（1、2年生）の合同チーム。花園は萩工時代から数えて6年連続13度目の出場で、3回戦進出が過去最高。

秋田中央と同じく、積極的にボールを動かしてBKが2次、3次と連続攻撃するのが得意。FWは、突破力があるNO8の田村健を中心に圧力をかける。SH吉田、SO岡が攻撃を組み立て、決定力のあるWTB三戸、FB大谷につなぎ、トライを狙う。萩工として出場した前回大会では2回戦で接戦の末、秋田に敗れている。

実戦形式の練習で攻撃パターンを確認する秋田中央の選手たち＝大阪府大東市の大産大グラウンド

朝青龍は27日、東京都墨田区の高砂部屋で幕下以下の力士に胸を出す軽めの調整をした。2日前のけいこ後に右かかと痛が再発したといい、この日は右足にサポーターを着け「まだ（初場所初日の来年1月）13日まで長いから、無理せずにやっていく」と話した。

希望していた年末年始のモンゴル帰国を高砂親方（元大関朝潮）に却下されたため、日本で新年

中央が初戦突破

全国高校ラグビー

第87回全国高校ラグビー大会第2日は二十八日、東大阪市の花園ラグビー場で1回戦11試合を行い、42年ぶり6度目出場の秋田中央は萩工・萩商工（山口）と対戦した。

秋田中央は前半、先制されたものの3トライを挙げて逆転し、19―5で折り返した。後半も攻撃の手を緩めず2トライを奪い、29―10で勝って三十日の2回戦に進んだ。

第87回全国高校ラグビー大会第２日は28日、東大阪市の近鉄花園ラグビー場で１回戦残り11試合を行った。42年ぶり６度目の出場となった秋田中央は萩工・萩商工（山口）と対戦。秋田中央は先制されたものの逆転に成功、その後もトライを重ね29―10で快勝した。秋田中央の初戦突破は、準々決勝に進んだ昭和36年以来、46年ぶり。正智深谷（埼玉）は関西学院（兵庫）に逆転勝ちし、唯一の初出場、北条（愛媛）は本郷（東京第２）に敗れた。第３日の30日は２回戦16試合を行い、秋田中央は午前10時45分から青森北（青森）と対戦。前回優勝の東海大仰星（大阪第１）、同準優勝の東福岡（福岡）などのシード校も登場する。

全国高校ラグビー〈第２日〉

秋田中央 46年ぶり白星

萩工・萩商工を撃破

▽１回戦

秋田中央 29（19―5 10―5）10 萩工・萩商工（山口）

萩工 10 0 5 TGP前 19
中央 32 0 0 TGP後 10
▽30分ハーフ▽キックオフ＝萩工・萩商工▽レフェリー＝白井

前半９分に先制を許した秋田中央は同15分、相手ゴール前のラックから左に展開し、CTB谷が同点トライ。ゴールも決まり逆転した。その後もFWで圧力をかけてから敵陣で展開し、トライを重ねた。

FW陣はモールドライブから２トライを挙げるなど、攻撃力で相手を上回った。

焦らず同点トライ

○…前半９分、動きの硬さから先制された秋田中央。その６分後にCTB谷直哉（２年）が同点トライを奪い、逆転につなげた。「先制され『まずい』と思ったが、すぐ反撃できたので落ち着けた」と谷。

雨のためボールが手に付かず、芝生が滑りやすいコンディション。持ち味の展開ラグビーを見せられず「出来は50点くらい」。それでも「焦らなかったことが勝ちにつながった」と話した。

50メートル走は６秒７と、それほど速くはない。しかしステップで変化をつけてタイミングをずらし、２回戦でもトライを狙う。

相手をかわせるのが長所だ。ランニングラグビーを担う一人として、２回戦進出の秋田中央

安定したFWで圧倒

「秋田市立」として出場した昭和40年から実に42年。「秋田中央」の名で初めて挑んだ花園に、白星の歴史を残した。「BKのチーム」と言われることが多い今年のチーム。しかしこの日の主役はモールやセットプレーで相手を圧倒したFW陣だった。

12―５とリードを広げた前半28分。相手ゴール前約15メートルで、マイボールラインアウトからモールを形成した。ベンチからは「押し込め」の声が響く。相手スクラムが悲鳴を上げるかのように後ずさりし、NO８浜田勇毅（３年）がインゴールに飛び込んだ。

秋田中央FWの平均体重は81・９キロ。決して大型とはいえない。それでも反復練習でスクラムは固い。後半、モールドライブからのサイドアタックで再びトライを奪った浜田は「県大会決勝で秋田工に勝ったことが、FW陣の自信になっている」と話した。

古谷和義監督も「FWが安定したセットプレーをしたおかげでリードできた」と評価。この日の５トライのうち四つをスクラム、ラインアウトから奪ったことが、セットプレーの安定感を示している。

２回戦では、高松北（香川）に69―３で完勝した青森北（青森）が待ち受ける。３回戦でAシードの伏見工（京都）を破って８強入りするという目標達成のためには、青森北が誇る平均体重92・５キロのFWを止めなければならない。

初戦でスクラムの固さを発揮した秋田中央が、花園のメーングラウンドで２勝目を勝ち取れるか。BKを含めたフィフティーンの総力を問われる一戦になりそうだ。

ハイライト

【１回戦・秋田中央―萩工・萩商工】前半15分、秋田中央のCTB谷が同点トライ＝近鉄花園ラグビー場

▽１回戦

日大三 22 前 34 （14―5 12―3）8 城東
4 T 0
1 G 0
0 P 1

二日本航空 5 後 12
2 T 1
1 G 0
0 P 0

国学院栃木 19 前 24 （9―0 15―0）10 荒尾
1 T 1
0 G 0
0 P 0

荒尾（栃木）19 後 10 城東（石川）
3 T 0
2 G 0
0 P 0

34計8　24計10

▽１回戦

青森北 69 前 33 （36―3 33―3）3 高松北（香川）
5 T 0
4 G 0
0 P 1

青森（青森）36 後 3
6 T 0
3 G 0
0 P 0

69計3　42計0

北見 20 前 0 （0―0 0―0）0 土佐塾
4 T 0
0 G 0
0 P 0

土佐塾（高知）22 後 0
4 T 0
1 G 0
0 P 0

道北海 42 前 0 （20―0 22―0）0 江の川
0 T 0
0 G 0
1 P 0

江の川（島根）3 後 0
0 T 0
0 G 0
1 P 0

日川 37 前 0 （33―0 33―0）6 札幌山の手
7 T 0
1 G 0
0 P 0

札幌山の手（南北海道）19 後 5
3 T 1
2 G 0
0 P 0

倉吉東 56 前 0 （37―0 19―5）5 倉吉東（鳥取）
7 T 0
1 G 0
0 P 0

56計5

正智深谷（埼玉）29 前 7 （29―0 29―0）0 関西学院（兵庫）
1 T 0
0 G 0
0 P 0

関西学院（兵庫）29 後 0
0 T 0
0 G 0
0 P 0

29計7　44計14

本郷（東京第二）15 前 0 （15―0 29―0）14 北条（愛媛）
3 T 0
0 G 0
0 P 0

北条（愛媛）29 後 14
5 T 2
2 G 0
0 P 0

44 前 15 （29―0 14―0）14 若狭
0 T 1
0 G 0
0 P 0

若狭 14 後 5
2 T 1
2 G 0
0 P 0

14計10

山形中央（山形）14 前 0 （14―0 5―5）10 高鍋
1 T 0
0 G 0
0 P 0

高鍋 26 前 0 （14―5 17―0）7 富山工
4 T 0
3 G 0
0 P 0

富山工 17 後 7
3 T 1
1 G 1
0 P 0

43計7

宮崎 43 前 17 （26―0 26―0）0 高山
7 T 0
3 G 0
0 P 0

高山（富山）26 後 0
7 T 0
7 G 0
0 P 0

29計7

秋田中央 青森北に届す

大型FWに対抗できず

第87回全国高校ラグビー大会第3日は30日、東大阪市の近鉄花園ラグビー場で2回戦16試合を行った。本県代表の秋田中央は青森北（青森）と対戦、後半開始直後にいったんは逆転に成功したものの、終盤は相手FWに押され、10―26で敗れた。前回優勝でBシードの東海大仰星（大阪第1）は尾道（広島）に敗れ、初戦敗退した。Aシード3校は、桐蔭学園（神奈川）が北見北斗（北北海道）に、前回準優勝の東福岡（福岡）が西陵（愛知）に大勝し、伏見工（京都）は正智深谷（埼玉）を下した。Bシード勢は大工大高（大阪第3）、国学院久我山（東京第1）、大分舞鶴（大分）などが順当に3回戦へ。しかし仙台育英（宮城）は5―38で長崎北陽台（長崎）に敗れた。第4日は1月1日に3回戦の8試合を行う。

全国高校ラグビー〈第3日〉

【2回戦・秋田中央―青森北】前半28分、秋田中央のCTB関山が左中間にトライを決める―東大阪市の近鉄花園ラグビー場

▽2回戦
青森北（青森）26（7―5、19―5）10秋田中央

	中央	青森北
TGP前	10 0 5	10 0 5
TGP後	10 0 5	3 2 0
計	10	6
反	26	9

▽30分ハーフ▽キックオフ＝青森北▽レフェリー＝今田

【中央】川口滝代、小田吉田洋、武木鎌田平、斉藤八田主、鶴谷吉田将、山上佐藤康、松山佐藤田、安達浜田央、堀鈴木良、HB川村奈智、山口鈴木、TB熊沢谷、沼田関山、小笠原佐々木正、鈴木佐藤FB

【青森北】

▷交代＝【青】藤田（斉藤）、鶴谷知（能沢）

積極的にボールを回し一進一退の攻防を展開した秋田中央だったが、後半は青森北の大型FWに対抗できず敗退した。

秋田中央は0―7で迎えた前半28分、相手ゴール前のラックから左へ展開したCTB関山がトライ。後半2分にはマイボールラインアウトからモールで押し込み10―7と逆転した。

しかしその後は相手の堅守に阻まれたほか、ハンドリングミスを重ねて追加点のチャンスを逸し、後半9分、19分とモールからのトライで差を広げられた。

チームの持ち味発揮

○…前半終了間際に鮮やかなトライで後半の一時リードにつなげたCTB関山歩麻（3年）。「FWが頑張ってくれたから決められた。全員が一体となって走る秋田中央のラグビーを見せられた」と振り返った。

得点シーンの直前、同じようにパスを受けたが、タックルで止められた。トライを奪った場面では同じ轍（てつ）を踏むことなく、直進すると見せかけて右前方へステップ。相手ディフェンスを振り切って決めたトライに「チームを勢いづけることができた」と納得の表情を見せた。

卒業後は県外の大学に進学し、ラグビーを続けるという。目標の8強入りは果たせなかったものの「本当に楽しかった。仲間には『ありがとう』と言いたい」と笑顔で感謝の言葉を口にした。

スタンドにあいさつした後、悔しそうな表情でベンチに戻る秋田中央フィフティーン

▽2回戦
伏見工（京都）27（17―7、10―7）7正智深谷（埼玉）

	伏見工	正智深谷
TGP前	3 1 0	1 0 7
TGP後	2 0 0	0 0 0
計	27	7

札幌山の手（北海道）56（22―34、34―0）0天理（奈良）

	札幌山の手	天理
TGP前	6 2 0	0 0 0
TGP後	4 1 0	0 0 0
計	56	0

流経大柏（千葉）56（22―34、34―0）0流経大江の川（島根）

	流経大柏	流経大江の川
TGP前	6 2 0	0 0 0
TGP後	3 2 1	0 0 0
計	56	0

長崎北陽台（長崎）38（17―5、31―5）5仙台育英（宮城）

	長崎北陽台	仙台育英
TGP前	3 1 7	0 0 0
TGP後	2 1 0	5 3 0
計	38	5

日本航空（石川）26（14―0、12―7）7若狭（福井）

	日本航空	若狭
TGP前	2 2 0	0 0 0
TGP後	2 1 0	1 1 0
計	26	7

佐賀工（佐賀）35（14―3、21―5）8尾道（広島）14（7―7、0―12）12東海大仰星（大阪第1）

	佐賀工	尾道	東海大仰星
TGP前	2 1 4	1 0 7	2 1 0
TGP後	3 1	1 0 7	0 0 0
計	35	14	12

国学院栃木（栃木）0―7盛岡工（岩手）

	国学院栃木	盛岡工
TGP前	0 0 1	0 0 0
TGP後	3 0 5	7 6 0
計	8	7

佐賀工（神奈川）90（47―0、43―0）0桐蔭学園（神奈川）

	佐賀工	桐蔭学園
TGP前	2 2 0	0 0 0
TGP後	3 3 0	7 4 0
計	90	0

北見北斗（北北海道）35（14―0、21―0）8桐蔭学園（神奈川）

	北見北斗	桐蔭学園
TGP前	1 0 3	0 0 0
TGP後	1 0 5	7 4 0
計	35	7

平工（福島）0―7盛岡工（岩手）

	平工	盛岡工
TGP前	0 0 0	0 0 0
TGP後	0 0 0	7 6 0
計	0	7

国学院久我山（東京第1）10（5―0、5―5）5四日市農芸（三重）

	国学院久我山	四日市農芸
TGP前	3 3 0	1 0 0
TGP後	1 0 5	1 0 0
計	10	5

茨城学園（茨城）26（19―0、7―0）0本郷（東京第2）

	茨城学園	本郷
TGP前	3 2 0	0 0 0
TGP後	1 0 0	1 0 0
計	26	0

大阪朝鮮（大阪第2）27（15―7、12―7）7八幡工（滋賀）

	大阪朝鮮	八幡工
TGP前	2 1 0	0 0 0
TGP後	1 1 0	2 1 1
計	27	7

大工大高（大阪第3）60（36―0、24―0）0高鍋（宮崎）

	大工大高	高鍋
TGP前	4 2 0	0 0 0
TGP後	5 4 1	0 0 0
計	60	0

大分舞鶴（大分）53（15―0、38―0）0東農大二（群馬）

	大分舞鶴	東農大二
TGP前	6 4 0	0 0 0
TGP後	3 0 0	0 0 0
計	53	0

東福岡（福岡）65（17―0、48―0）0西陵（愛知）

	東福岡	西陵
TGP前	8 4 0	0 0 0
TGP後	3 1 0	0 0 0
計	65	0

反則続きリズム寸断

秋田中央

FWの平均体重で10キロ上回る青森北（青森）に、秋田中央は健闘した。BKは足を止めることなく疾走し、FWはドライビングモールで押し込んだ。しかし、じわじわと体力を削られミスで好機を失うと、息を吹き返した相手を止めることができなかった。

相手FWの前進を押しとどめ、積極的にボールを回す。それが秋田中央のゲームプランだった。先制こそ許したものの、試合は思い描いた通りに進んだ。

前半28分、CTB関山歩麻（3年）が相手ディフェンスを鮮やかに抜き去って決めたトライは、チームの持ち味を最も端的に示した。後半2分、ドライビングモールからのトライは、吉田洋平主将（同）が「BKだけでなくFWも強いことを思い知らせたかった」という意地で奪った。

焦点

BKが走り、FWが押したプレーに、フィフティーンは自信を持った。

だが青森北の捨て身のディフェンスに、そこからどうしても追加点を奪えない。大型FWの圧力がボディーブローとなって効き始め、徐々に押し戻された。自慢の展開ラグビーでもノックオンの反則が続き、攻撃のリズムが寸断。後半15分ごろからは完全にペースを奪われてしまった。

試合終了後、涙を止められなかった吉田主将。だが時間とともに、その表情は穏やかになった。「夢だった花園で2度もいい試合ができた。悔いはない」

展開ラグビーを体現したBK陣のうち、両WTBとCTB1人は2年生。「来年またここに来てほしい」との先輩たちの言葉に、涙を流しながらうなずいた。先輩たちのため、そして自分たちの力で花園に戻ってくるため、残るラガーメンはまた明日から走り続ける。